

# 放射線腫瘍科

## 陽子線医学利用研究センター

腫瘍の総合的な臨床診断と放射線療法を中心とした  
集学的治療を行う

臨床腫瘍医“oncologist”の育成

### 放射線治療は、需要が伸びる分野

放射線治療は、手術、化学療法とならび、がん治療の3本柱の一つです。米国ではがん患者の50-60%が放射線治療を受けている一方で、日本では放射線治療の普及が遅れており、都市部でも30%程度が現状です。今後、急速な高齢化社会をむかえ、このままでは日本のがん治療を支えきれないため、国のがん対策も放射線治療に特に重点がおかれています。

### 放射線腫瘍学は、総合的臨床腫瘍学

放射線腫瘍学は単に放射線治療をする分野ではありません。最適な放射線治療を提供するには、放射線基礎医学、腫瘍診断学、臨床腫瘍学（内科、外科等）、放射線管理学、終末期医療やQOLなどの幅広い知識と経験が必要です。これらの知識を放射線治療を中心として包括した分野が放射線腫瘍学です。

### 当科には、世界へ通じる放射線腫瘍医の扉があります

筑波大学の放射線腫瘍科では、高い倫理性を有し国際的に活躍できる一流の放射線腫瘍医を育成してゆきます。そのため、放射線生物学や物理学などの基礎医学の深い知識を身につけ、ベッドサイドでは患者の視点に立ち、他の医療者と協力し合えるバランスのとれた専門医を育成します。また、筑波大学の研修では、X線治療、小線源治療、粒子線治療などすべての治療機器を備えておりますので、患者の視点からより広い治療の選択肢を考慮することが可能となります。また、臨床研修をしながら、海外を含む学会活動や論文の作成を行い、早期の学位取得を目指しています。後期研修医の皆さんにとっては、やりがいのある、そして世界へ通じる扉を持っている診療科であると自負しておりますので、ぜひ当科での研修をお勧めします。

### ■ ■ ■ プログラムの特徴 ■ ■ ■

### あらゆる放射線治療が研究可能

#### 治療の多様性は、国内屈指

- 世界でも有数の陽子線治療施設の診療
- Particle beam therapy (粒子線治療)
- BNCT (硼素中性子捕捉療法)
- IMRT (強度変調放射線治療)
- IGRT (画像誘導放射線治療)
- IGBT (画像誘導小線源治療)
- SRS (定位手術的照射法)
- SRT (定位放射線治療)
- 3D-CRT (3次元原体照射法)
- Hyperthermia (温熱療法)

国際的な研究活動が可能です。  
世界への扉があります。



### アカデミックレジデントを推奨

#### ◆昼夜開講の大学院への入学が可能

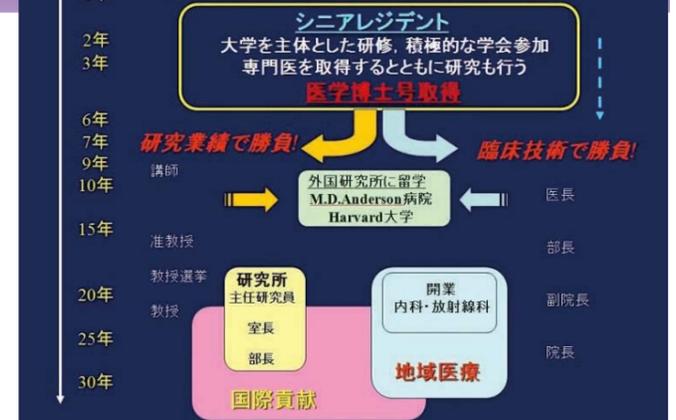
大学院で勉強しながら研修し、  
研修終了と同時に早期学位取得、  
専門医取得を目指します

#### ◆国内外の学会発表の機会が多い

レジデントから積極的に国際学会へ参加  
オーラル・ポスター発表を行います

### 放射線腫瘍医学研修医の将来

レジデント 簡単な和文論文と英語論文を作成



### 集学的治療の中で放射線腫瘍学を習得する

◆オンコロジストとして、  
がん治療に関する幅広い知識と経験の習得

◆カンファレンスが充実  
定期的な院内他科とのカンファレンス  
や勉強会を実施

◆がんの総合的診療科として  
治療方針を討議、決定



### 関連施設が充実

◆県内、都内、関東域の  
主要がん専門病院が関連施設

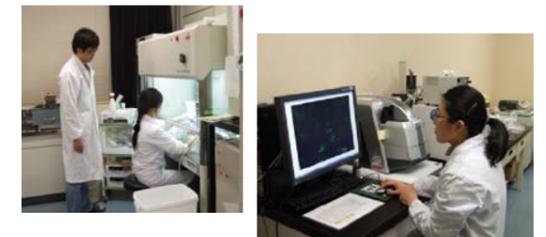
◆研修終了後は常勤医として就職も可能

### ここでしかできない研究、診療がたくさんある

◆研究環境が良好で国際的な研究、  
診療が可能

◆生物学、物理学などの  
基礎研究テーマが充実

◆特に筑波大は陽子線治療の老舗、国際性豊か  
視野の広い臨床医になることが可能です



問合せ先TEL: 029-853-7100(事務室代表)



教授 櫻井英幸  
hsakurai@pmrc.tsukuba.ac.jp

<http://www3.pmrc.tsukuba.ac.jp/>  
<http://www.pmrc.tsukuba.ac.jp/>  
研究室は陽子線センター3階です



病院教授 奥村敏之  
okumura@pmrc.tsukuba.ac.jp